

注3

大学番号：私248

[平成23年度設置]

計画の区分：学部を設置

注1

認可

関西外国語大学 英語キャリア学部 英語キャリア学科

注2

## 【認可】改善意見等対応状況報告書

学校法人 関西外国語大学  
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局

職名・氏名 ジムキョクチョウ ヨシザキ マコト  
事務局長・吉崎 誠

電話番号 072-805-2801

（夜間） 072-805-2801

F A X 072-805-2862

e-mail ymakoto@kansai-gaidai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

英語キャリア学部

<英語キャリア学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	18
7. その他全般的事項	23
8. 資料	27

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 関西外国語大学

## (2) 大学名

関西外国語大学

## (3) 大学の位置

〒573-1001  
大阪府枚方市中宮東之町16-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タニモト エイコ) 谷本 榮子 (平成20年10月)		
学長	(タニモト ヨシタカ) 谷本 義高 (平成19年4月)		
学部長			
学科長		(オカダ ノブオ) 岡田 伸夫 (平成23年10月)	平成23年10月就任のため(24)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)  
平成27年度に報告する内容 → (27)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
英語キャリア学部 英語キャリア学科 学士(英語キャリア)	4年	120人	—	480人	平成25年4月より 学生募集停止 (平成25年度)

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	120 (—) [—]	—	120 (—) [—]	—	— (—) [—]	—	— (—) [—]	—	— (—) [—]	—	1.02倍	1.02倍	
志願者数	2,175 (—) [—]	— (—) [—]	1,683 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	2,161 (—) [—]	— (—) [—]	1,663 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	212 (—) [—]	— (—) [—]	259 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	123 (—) [—]	— (—) [—]	123 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	1.02		1.02		—		—		—				

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。  
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[ - ] ( - ) 123	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 3 ) 126	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 2 ) 2	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —		
2年次	/		[ - ] ( - ) 115	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 4 ) 118	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 2 ) 2	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —		
3年次			/		[ - ] ( - ) 109	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 9 ) 113	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 3 ) 3	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) —	
4年次					/		[ - ] ( - ) 102	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( - ) 124	[ - ] ( - ) —	[ - ] ( 23 ) —	[ - ] ( - ) —
計			[ - ] ( - ) 123	[ - ] ( 3 ) 241			[ - ] ( 6 ) 229	[ - ] ( 11 ) 217	[ - ] ( 26 ) 127			

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	123 人	14 人	平成23年度	5 人	— 人	病気(2人)、就学意欲の低下(2人) 他の教育機関への入学(1人)	11.4 %
			平成24年度	5 人	— 人	就学意欲の低下(3人)、他の教育機関 への入学(1人)、その他(1人)	
			平成25年度	2 人	— 人	経済的(1人)、除籍(1人)	
			平成26年度	2 人	— 人	就学意欲の低下(1人)、死亡(1人)	
			平成27年度	— 人	— 人		
平成24年度 入学者	123 人	21 人	平成24年度	7 人	— 人	他の教育機関への入学(4人)、 海外留学(2人)、就学意欲の低下(1人)	17.1 %
			平成25年度	10 人	— 人	他の教育機関への入学(3人)、就学意欲 の低下(3人)、海外留学(1人)、学生個人 の心身に関する事情(1人)、一身上の都 合(1人)、除籍(1人)	
			平成26年度	4 人	— 人	海外留学(1人)、就職(1人)、経済的(1 人)、病気(1人)	
			平成27年度	— 人	— 人		
平成25年度 入学者	— 人	— 人	平成25年度	— 人	— 人		
平成26年度 入学者	— 人	— 人	平成26年度	— 人	— 人		
合 計	246 人	35 人					14.2 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入して
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<英語キャリア学部 英語キャリア学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	単位	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門複合科目	LgD:Reading & Writing I (Global Issues I)	1前	2			0	1	2	1			専任教員退職に伴い、専任教員1名減 (24) ① 平成24年4月から後任として専任1名と兼担1名が担当し、平成24年9月から専任1名の担当授業科目を追加予定「平成24年6月変更書提出予定」 → 平成24年7月AC教員審査済 (25) 判定可 ② 平成25年4月から後任の専任教員を補充予定「平成24年12月変更書提出予定」 → 平成25年1月AC教員審査済 (25) 判定可
	LgD:Reading & Writing II (Global Issues II)	1後	2			0	1	2	1			
	LgD:Speaking & Listening I (Groups within Societies)	1前	2					2			兼1	
	LgD:Speaking & Listening II (Conflicts within Societies)	1後	2					2			兼1	
	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences)	2前	2			1	2	0	4	2	兼1 0	
	LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	2後	2			1	2	0	4	2	兼1 0	
	LgD:Academic English (Cultural Perspectives)	2前	2					2				
	LgD:Analytical Thinking (Cultural Reflections)	2後	2					2				
	アカデミック・リーディング I	1前	2			1		4				
	アカデミック・リーディング II	1後	2			1		4				
	アカデミック・リーディング III	2前	2			2		4				
	アカデミック・リーディング IV	2後	2			2		4				
	ゼミナール I	2前	2			2		4				
	ゼミナール II	2後	2			2		4				
	言語基礎論	1前	4			1					兼1	
	キャリア・デザイン	1後	2						1			
	キャリア形成 A	2前		2							兼1	
	キャリア形成 B	2後		2							兼1	
	英語ビジネス・プリビュー A	1後		4							兼1	
	英語ビジネス・プリビュー B	1後		4							兼1	
	英語ビジネス・プリビュー C	2後		4							兼1	
	英語ビジネス・プリビュー D	2後		4							兼1	
	英語ビジネス・コミュニケーション	3・4前		4			1					
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4後		2			1					
	英語学複合研究	4後		4		1						
	英語教育学複合研究	4後		4		1						
	英語文学複合研究	4後		4		1						
	グローバル・ビジネス複合研究	4後		4			2					
国際教養複合研究	4後		4		1	1						
英語キャリア卒業研究 I	4前		2		6	6		1				
英語キャリア卒業研究 II	4後		2		6	6		1				
専門研究科目	英語学概論	1後	4			1					兼1	
	現代英文法	1後		4		1						
	英語学研究 A	2前		4		1						
	英語学研究 B	2後		4								
	英語教育学	2後		4		1						
	応用言語学	3・4前		4		1						
	英語科教育法	3・4前		4		1						
	英語文学概論	2後		4		1						
	英語文学作品研究	3・4前		4		1						
	英語演習 A	1前		4								
	英語演習 B	1後		4								
	日本語学概論	2前		4								
	日本語学 I	2前		4								
	日本語学 II	2後		4								
	日本語教育法 I	3・4前		4						兼2 オムニバス		
	日本語教育法 II	3・4後		4						兼2 オムニバス		
	日本学 A	2前		4						兼1 2 教育効果を高めるため、兼任教員によるオール英語の授業が追加開講 (26)		
日本学 B	2後		4						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 研究 科目	ミクロ経済学	1後	4			1	1						
	マクロ経済学	2前	4			1	1						
	イントロダクション経済学	1前		2								兼 2	オムニバス
	経営学概論	1前		4			1						
	会計学Ⅰ	1後		4			1						
	会計学Ⅱ	2前		4			1						
	ビジネス統計	1後		2								兼 1	
	ビジネス数学	1前		2			1						
	金融論	2後		4		1							
	マーケティング論	2前		4			1						
	ファイナンス	3・4前		4		1							
	国際経済学	3・4後		4								兼 1	
	国際経営論	3・4前		4								兼 1	
	流通システム論	3・4後		4			1						
	国際関係論Ⅰ	1前	4				1					兼 1	
	国際関係論Ⅱ	1後		4			1					兼 1	
	情報システム概論	1前		2								兼 1	
	地域研究A(欧米)	2前		4		1							
	地域研究B(アジア)	2後		4								兼 1	集中
	国際開発論	2後		4								兼 1	
	社会学	2前		4				1					
	比較社会論	2後		4				1					
	国際機構論	3・4前		4								兼 1	
	比較文化研究	3・4後		4								兼 1	教育効果を高めるため、兼任教員による オムニバスの授業が26を 追加(26) 兼任教員退職のため(27)
	国際労働関係法	3・4前		4		1							
	航空概論	3・4後		4		1							
	エアポート論	3・4後		4								兼 1	
	ホテル学	3・4後		4								兼 1	
	ホスピタリティ	3・4前		4		1							
	ツーリズム	3・4後		4		1							
	海外事情研究A	1~4		4								※ 1	
	海外事情研究B	1~4		4								※ 1	
	海外事情研究C	1~4		4								※ 1	
	海外事情研究D	1~4		4								※ 1	
	海外事情研究E	1~4		4								※ 1	
	異文化マネジメントA	2・3・4		4								※ 1	
	異文化マネジメントB	2・3・4		4								※ 1	
	異文化マネジメントC	2・3・4		4								※ 1	
	異文化マネジメントD	2・3・4		4								※ 1	
	異文化マネジメントE	2・3・4		4								※ 1	
	英語学研究C	3・4		4								※ 1	
	英語学研究D	3・4		4								※ 1	
	英語学研究E	3・4		4								※ 1	
	英語学研究F	3・4		4								※ 1	
	英語学研究G	3・4		4								※ 1	
	英語学研究H	3・4		2								※ 1	
	英語学研究I	3・4		2								※ 1	
	英語教育学研究A	3・4		4								※ 1	
	英語教育学研究B	3・4		4								※ 1	
	英語教育学研究C	3・4		4								※ 1	
英語教育学研究D	3・4		4								※ 1		
英語教育学研究E	3・4		4								※ 1		
英語文学研究A	3・4		4								※ 1		
英語文学研究B	3・4		4								※ 1		
英語文学研究C	3・4		4								※ 1		
英語文学研究D	3・4		4								※ 1		
英語文学研究E	3・4		4								※ 1		
グローバル・ビジネス研究A	3・4		4								※ 1		
グローバル・ビジネス研究B	3・4		4								※ 1		
グローバル・ビジネス研究C	3・4		4								※ 1		
グローバル・ビジネス研究D	3・4		4								※ 1		
グローバル・ビジネス研究E	3・4		4								※ 1		
国際教養研究A	3・4		4								※ 1		
国際教養研究B	3・4		4								※ 1		
国際教養研究C	3・4		4								※ 1		
国際教養研究D	3・4		4								※ 1		
国際教養研究E	3・4		4								※ 1		



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	スペイン語	2前		4							兼1	教育効果を高めるため、平成25年9月から兼任教員によるオム英語の授業クラスを追加開講 (26)
	中国語	2前		4							兼1	
	フランス語	2前		4							兼1	
	イタリア語	2前		4							兼1	
	ハンガール	2前		4							兼1	
	哲学	3・4後		4							兼1・2	
	心理学	3・4前		4							兼1	
	芸術史	3・4前		4							兼1	
	人権問題論	3・4後		4							兼1	
	憲法	3・4後		4							兼1	
	環境科学	3・4前		4							兼1	
	スポーツ健康科学	3・4後		2							兼1	
	総合科目A	3・4前		4							兼1・2	
	総合科目B	3・4後		4							兼1	
	総合科目C	3・4前		4							兼1	
	総合科目D	3・4後		4		1					兼1	
	総合実習A(インターンシップ)	2・3・4		2							※2	
総合実習B(インターンシップ)	2・3・4		2							※2		
総合実習C(ボランティア)	2・3・4		2							※2		
総合実習D(ボランティア)	2・3・4		2							※2		
海外フィールド・スタディA	2・3・4		4							※1		
海外フィールド・スタディB	2・3・4		4							※1		
教職に関する科目	教職概論	1前・後			2						兼2	課程認定申請において、課程認定委員会の指摘により、科目名称を変更 (23)
	教育基礎論	1前・後			2						兼3	
	教育心理学	1前・後			2						兼2	
	教育制度概論	2前・後			2						兼3	
	英語科教育法Ⅰ	3前・後			4						兼3	
	英語科教育法Ⅱ	3後			4						兼1	
	理論と実践 道徳教育の研究	2前・後			2						兼2	
	特別活動の理論と実践 教科外活動論	3前・後			2						兼3	
	教育方法の理論と実践 外国語教育実践	3前・後			4	1					兼3・2	
	生徒指導論	3前・後			2						兼3	
	教育相談	2前・後			2						兼1	
	教育実習Ⅰ	4通			5						兼1	
	教育実習Ⅱ	4通			3						兼1	
教職実践演習(中・高)	4後			2	1					兼3		
日英 本 成 科 目 に 関 する 教 員 等	日本語教育実習演習	4後			2						兼1	課程認定申請において、課程認定委員会の指摘により、科目名称を変更 (23)
	日本語教育実習	4後			2						兼1	
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	1前・後 2前・後			2 1						兼2	図書館法施行規則一部改正に伴う科目名称・配当年次・単位数の変更及び新規科目の追加 (24)
	図書館概論	1前・後 2前・後			2						兼2	
	図書館制度・経営論 図書館経営論	2前・後			2 1						兼1	
	図書館情報技術論	2前・後			2						兼1	
	図書館サービス概論 図書館サービス論	1前・後 2前・後			2						兼2	
	情報サービス論 情報サービス概説	2前・後 3前・後			2						兼2	
	情報 レファレンスサービス演習A	3前・後 2前・後			1						兼2	
	サービス 情報検索演習B	3前・後			1						兼2	
	情報資源概論 図書館資料論	2前・後			2						兼1	
	図書館情報資源特論 専門資料論	3前・後			1						兼2	
	情報資源組織論 資料組織概説	1前・後 2前・後			2						兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	計	教	准教授	講師	助教		助手
図書館司書に関する科目	情報資源 A 資料組織演習Ⅱ	2前・後			1						兼 2	教育効果を高めるため、兼任教員による担当授業75%を追加(26)
	情報資源 B 資料組織演習Ⅰ	2前・後			1						兼 2	
	児童サービス論	2前・後 3前・後			2 4						兼 2	
	図書・図書館史 資料特論	3集中			1						兼 2	
	基礎特論 図書館特論	3前・後			1						兼 2	
司書に関する論理	学校経営と学校図書館	3前			2						兼 2	オムニバス
	学校図書館メディアの構成	2後			2						兼 1	
	学習指導と学校図書館	3後			2						兼 2	オムニバス
	読書と豊かな人間性	2前			2						兼 1	
	情報メディアの活用	2後			2						兼 1	
その他	情報機器実習	1通			2						兼 1	

備考※1：留学中の学修等について単位認定を行う科目

備考※2：国内外のインターンシップやボランティア活動における学修について単位認定を行う科目

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合は、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
20科目	118科目	37科目	175科目	20科目	118科目	38科目	176科目	図書館法施行規則一部改正に伴う新規科目の追加(24)
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ +1 ]	[ +1 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	中宮キャンパス全体 関西外国語大学短期大学部と共用  ・駐車場増設に伴う校舎敷地、運動 場用地の面積変更(26)  (仮称)御殿山キャンパス用校地購入(27) 校地 50,285.83㎡ 運動場用地 6,720.99㎡  ・平成22年5月購入(23)		
	校舎敷地	0 ㎡	216,586.97 166,301.14 165,110.86 161,733.27 ㎡	0 ㎡	216,586.97 166,301.14 165,110.86 161,733.27 ㎡			
	運動場用地	0 ㎡	64,330.24 57,609.25 58,799.53 ㎡	0 ㎡	64,330.24 57,609.25 58,799.53 ㎡			
	小 計	0 ㎡	280,917.21 223,910.39 220,532.80 ㎡	0 ㎡	280,917.21 223,910.39 220,532.80 ㎡			
	そ の 他	0 ㎡	10,502.19 ㎡	0 ㎡	10,502.19 ㎡			
	合 計	0 ㎡	291,419.40 234,412.58 231,034.99 ㎡	0 ㎡	291,419.40 234,412.58 231,034.99 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	中宮キャンパス全体  ・7号館完成後の登記により面積変更 (26)  ・教室・研究室棟新設に伴う増(25) ・インターナショナル・コミュニケーション・センター新設に 伴う増(25)			
	21,216.77 20,407.51 ㎡	55,956.80 57,509.46 -36,506.54 ㎡	5,990.18 ㎡	83,163.75 84,716.41 62,904.23 ㎡				
	21,216.77 ( 20,407.51 ㎡)	44,930.45 ( 36,506.54 ㎡)	( 5,990.18 ㎡)	72,137.40 ( 62,904.23 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	中宮キャンパス全体  ・7号館新設に伴う増(26) ・インターナショナル・コミュニケーション・センター新設に 伴う増(25)		
	132 105 77 室	101 90 72 室	10 3 室	9 7 室 (補助職員 人)	14 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任1人補充による増 (25) 平成25年1月AC教員審査済		
	英語キャリア学部 英語キャリア学科			-19- 20 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	中宮キャンパス全体 図書 426,000[214,000]冊 (完成年度) (419,504[208,357]) (27) (416,652[206,853]) (26) (407,050[203,425]) (25) (400,049[201,213]) (24) (393,810[199,252]) (23) (395,500[200,000]) 学術雑誌 2,480[968]種(完成年度) (2,737[957]) (27) (2,737[957]) (26) (2,481[957]) (25) (2,426[946]) (24) (2,403[922]) (23) (2,396[925]) 視聴覚資料は共有 15,560点(完成年度) 13,865(27) 13,232(26) 12,785(25) 12,995(24) 12,347(23) 13,340 機械・器具は共有 220点(完成年度) 206(27) 208(26) 208(25) 222(24) 228(23) 212
	英語キャリア学部	144,500[89,850]  (144,071[89,662]) (143,770[89,477]) (143,494[89,234]) (142,835[88,797]) (142,145[88,358]) (142,145[88,358])	390[250]	7,100[7,000]  (4,715[4,117]) (3,836[3,326]) (3,551[3,498]) (2,610[2,559]) (348[228])	15,560  (13,865) (13,232) (12,785) (12,905) (12,347) (13,340)	.220  (206) (208) (222) (228) (212)	0  (0)	
	計	144,500[89,850]  (144,071[89,662]) (143,770[89,477]) (143,494[89,234]) (142,835[88,797]) (142,145[88,358]) (142,145[88,358])	390[250]	7,100[7,000]  (4,715[4,117]) (4,191[4,138]) (3,551[3,498]) (2,610[2,559]) (6,616[6,567])	15,560  (13,865) (13,232) (12,785) (12,905) (12,347) (13,340)	220  (206) (208) (222) (228) (212)	0  (0)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		中宮キャンパス全体  図書館レイアウト変更により 閲覧席数増(25)		
	12,850 ㎡	1,345 1,230		942,000				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	14,453.63 ㎡	テニスコート		アーチェリー練習場				

(8)	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	中宮キャンパス全体の図書購入費 26年度予算 84,496千円 実績 84,998千円 25年度予算 490,506千円 実績 84,998千円 開設年度予算 86,860千円 実績 72,734千円 完成年度計画 86,000千円 図書購入費(完成年度)について、図書および雑誌の合計を記載するところ、図書の計上が漏れていたことによる修正(26) ■英語キャリア学部は予算3,886千円に対して、購入実績は3,229千円。内訳は図書2,506千円(276冊)、雑誌は722千円(25種)。(25) ■中宮キャンパス全体は予算100,506千円に対して、機器備品、消耗品などの購入抑制を行い実績84,998千円となった。(25) (中宮キャンパス全体の図書購入費には、図書(備品)・雑誌・電子ジャーナル・データベース・消耗品・視聴覚資料・新聞及び機器備品・消耗品など運用コストを含む。)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	8,279千円 8,353千円	6,674千円 6,911千円	3,886千円 886千円	
経費の見積り及び維持方法の概要	共同研究費等		2,500千円	2,500千円	設備購入費	千円		千円	
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,270千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学経常費補助金 等						

複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	関西外国語大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
英語キャリア学部									
英語キャリア学科	4	120	—	360	学士(英語キャリア)	1.11	平成25年度	大阪府枚方市中宮東之町16-1	
英語キャリア学科 小学校教員コース	4	30	—	90	学士(教育)	1.15	平成25年度	同上	
外国語学部			3年次						
英米語学科	4	1,170	300	5,310	学士(英語学)	1.13	昭和41年度	大阪府枚方市中宮東之町16-1	平成25年4月より入学定員変更 1,200人→1,170人 (△30人)
スペイン語学科	4	250	25	1,050	学士(スペイン語学)	1.13	昭和41年度	同上	
英語国際学部			3年次						
英語国際学科	4	700	100	700	学士(英語国際)	1.12	平成26年度	大阪府枚方市穂谷1-10-1	
国際言語学部									
国際言語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(国際言語コミュニケーション学)	—	平成8年度	同上	平成26年4月(3年次編入学は平成28年4月)より学生募集停止
大学院									
外国語学研究科									
博士前期課程									
英語学専攻	2	15	—	30	修士(英語学)(英語教育)	0.19	昭和48年度	大阪府枚方市中宮東之町16-1	
言語文化専攻	2	20	—	40	修士(言語文化)(日本語学)(英語ビジネス・コミュニケーション)	0.42	昭和51年度	同上	
博士後期課程									
英語学専攻	3	3	—	9	博士(英語学)(英語教育)	0.22	昭和54年度	同上	
言語文化専攻	3	3	—	9	博士(言語学)(言語文化)(日本語学)(文化人類学)(比較文化学)	0.55	昭和54年度	同上	
大学の名称	関西外国語大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
英米語学科	2	800	—	1,600	短期大学士(英語学)	1.15	昭和28年度	大阪府枚方市中宮東之町16-1	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<英語キャリア学部 英語キャリア学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	松宮 新吾	平成23年4月	アカデミック・リーディングⅠ アカデミック・リーディングⅡ アカデミック・リーディングⅢ アカデミック・リーディングⅣ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 英語科教育法 英語キャリア卒業研究Ⅰ 英語キャリア卒業研究Ⅱ 外国語教育実践 教職実践演習(中・高)					アカデミック・リーディングⅠ アカデミック・リーディングⅡ アカデミック・リーディングⅢ アカデミック・リーディングⅣ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ 英語科教育法 英語キャリア卒業研究Ⅰ 英語キャリア卒業研究Ⅱ 教育方法の理論と実践 教職実践演習(中・高)	課程認定審査において、科目名称を変更(23)
専任	准教授	フィリップ クラーク Phillip Clark	平成23年4月	LgD:Reading & Writing I (Global Issues I) LgD:Reading & Writing II (Global Issues II) LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations) 英語キャリア卒業研究Ⅰ 英語キャリア卒業研究Ⅱ	専任	講師	ブライアン ボンド Brian Bond	平成23年4月	LgD:Reading & Writing I (Global Issues I) LgD:Reading & Writing II (Global Issues II)	平成24年4月から フィリップ クラーク准教授退職に伴い 平成24年度について、担当者変更(24) ただし、ブライアン ボンド専任講師、 フランス リンゼイ専任教授については 当該科目の教員資格審査で「可」 の判定を受けている  平成24年9月から専任1名の担当 授業科目を追加予定(24) 「平成24年6月変更書提出予定」  平成25年4月から後任の専任教員 を補充予定(24) 「平成24年12月変更書提出予定」
					専任	教授	フランス リンゼイ Francis Lindsey	平成23年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	
					兼任	講師	キンバリー クラッセン Kimberly Klassen	平成24年4月	LgD:Reading & Writing I (Global Issues I) LgD:Reading & Writing II (Global Issues II)	
					兼任	講師	アンドレアス スヴラコフ Andreas Svrakov	平成24年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	
兼任	講師	引頭 雄一	平成25年4月	エアポート論	兼任	教授	引頭 雄一	平成25年4月	エアポート論	既設学部において、兼任講師から専任教授として採用(24)
兼任	准教授	ガー レイノルズ Garr Reynolds	平成23年9月	英語ビジネス・レビューB 英語ビジネス・レビューC	兼任	教授	ガー レイノルズ Garr Reynolds	平成23年9月	英語ビジネス・レビューB 英語ビジネス・レビューC	既設学部において、准教授から教授に昇格(24)
					兼任	講師	島山 京子	平成24年4月	国際関係論Ⅰ	教育効果を高めるため、オム英語の授業が追加開講(24)
					兼任	講師	金 ゼンマ	平成24年9月	国際関係論Ⅱ	教育効果を高めるため、オム英語の授業が追加開講(24)
専任	教授	フランス リンゼイ Francis Lindsey	平成23年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	専任	教授	フランス リンゼイ Francis Lindsey	平成23年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations) LgD:Reading & Writing I (Global Issues I) LgD:Reading & Writing II (Global Issues II)	平成24年9月から担当授業科目を追加(24) 平成24年7月 AC教員審査済
兼任	講師	アンドレアス スヴラコフ Andreas Svrakov	平成24年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	専任	講師	アンドレアス スヴラコフ Andreas Svrakov	平成25年4月	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	兼任(講師)から専任(講師)へ変更(25) 平成25年1月 AC教員審査済
専任	准教授	セー シッパ Sara Schipper	平成23年4月	LgD:Speaking & Listening I (Groups within Societies) LgD:Speaking & Listening II (Conflicts within Societies) LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences) LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	専任	准教授	セー シッパ Sara Schipper	平成23年4月	LgD:Speaking & Listening I (Groups within Societies) LgD:Speaking & Listening II (Conflicts within Societies)	専任(講師)を1名補充したことにより、担当授業科目を再調整した結果、科目の種類を4科目から2科目へ変更(25)
兼任	講師	金 ゼンマ	平成24年9月	国際関係論Ⅱ	兼任	講師	市原 麻衣子	平成25年4月	国際関係論Ⅱ	教育効果を高めるため、オム英語の授業でより研究分野が近い教員へ変更(25)
兼任	教授	田中 克之	平成25年4月	国際機構論					国際機構論	
					兼任	講師	中川 真由美	平成26年4月	総合科目A	教育効果を高めるため、オム英語の授業が追加開講(26)
兼任	教授	加藤 謙	平成25年9月	総合科目B	兼任	講師	中川 真由美	平成26年4月	総合科目B	退職に伴い、オム英語の授業が追加開講より担当者変更(26)
					兼任	講師	ジョン シュルト John Shultz	平成25年9月	日本学A 哲学 比較文化研究	教育効果を高めるため、平成25年9月からオム英語の授業が追加開講(26)
兼任	准教授	田村 直樹	平成23年9月	ビジネス統計	兼任	准教授	北尾 信夫	平成25年9月	ビジネス統計	前任者の健康上の理由により、平成25年9月から担当者を変更(26)
				国際経営論	兼任	教授	金城 亜紀	平成26年4月	国際経営論	前任者の健康上の理由により、担当者を変更(26)
専任	講師	草野 千秋	平成23年4月	キャリア・デザイン 英語キャリア卒業研究Ⅰ 英語キャリア卒業研究Ⅱ	専任	講師	古田 克利	平成27年4月	キャリア・デザイン 英語キャリア卒業研究Ⅰ 英語キャリア卒業研究Ⅱ	平成27年3月 草野千秋専任講師退職のため、 平成27年度より既設学部からの転籍により 専任講師を補充(27)
兼任	教授	石崎 寛治	平成25年9月	総合科目D	専任	教授	落合 清茂	平成25年4月	総合科目D	平成27年3月 石崎寛治准教授退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	大久保 恭子	平成25年4月	芸術史	兼任	講師	山本 友紀	平成27年4月	芸術史	平成26年8月 大久保恭子兼担教授退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)
兼任	教授	金城 亜紀	平成26年4月	国際経営論	兼任	教授	スティーブン ザーホー Stephen Zurcher	平成27年4月	国際経営論	平成27年3月 金城亜紀兼担教授退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)
兼任	講師	メガン ルーリー Meagan Reule	平成26年9月	LD: Reading Comprehension	兼任	教授	リサ ミラー Lisa Miller	平成26年9月	LD: Reading Comprehension	平成26年8月 Meagan Reule兼担講師退職のため、 平成26年9月より担当者を変更(27)
兼任	講師	北條 秀司	平成25年4月	人権問題論	兼任	教授	明石 一朗	平成27年4月	人権問題論	平成27年3月 北條秀司兼任講師退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)
兼任	教授	安田 猛	平成24年4月	キャリア形成A キャリア形成B	兼任	教授	末包 厚喜	平成27年4月	キャリア形成A キャリア形成B	平成27年3月 安田猛兼担教授退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)
兼任	准教授	北尾 信夫	平成25年9月	ビジネス統計					ビジネス統計	教育効果を高めるため、平成27年度より、 より研究分野に近い教員へ変更(27)
兼任	講師	畠山 京子	平成24年4月	国際関係論 I	兼任	助教	三牧 聖子	平成27年4月	国際関係論 I	教育効果を高めるため、平成27年度より、 2-4英語の授業でより研究分野に近い教員 へ変更(27)
兼任	講師	須川 亜紀子	平成24年4月	日本学A 比較文化研究	兼任	助教	具 本 媛	平成27年4月	日本学A	平成27年3月 須川亜紀子兼担講師退職のため、 平成27年度より「日本学A」の担当者を変更。 「比較文化研究」は、平成26年度に担当教員を 1名追加しているため、支障はない。(27)
兼任	講師	篠原 総一	平成23年4月	イントロダクション 経済学(オムニバス)	兼任	講師	西村 理	平成27年4月	イントロダクション 経済学(オムニバス)	平成26年8月 篠原総一兼任講師退職のため、 平成27年度より担当者を変更(27)

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考				
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名					
兼任	教授	網倉 尚武	平成23年4月	教職概論	兼任	教授	網倉 尚武	平成26年4月	教育実習Ⅰ	課程認定審査において、担当科目不適合のため、担当科目および就任年月を変更(23)				
				教育制度概論					教育実習Ⅱ					
兼任	教授	岡澤 潤次	平成23年4月	教職実践演習(中・高)	兼任	教授	岡澤 潤次	平成23年4月	教職実践演習(中・高)	課程認定審査において、担当科目不適合のため、担当科目を変更(23)				
				教育基礎論					教育制度概論					
兼任	教授	並松 善秋	平成25年4月	英語科教育法Ⅰ	兼任	講師	藤田 弘之	平成23年4月	英語科教育法Ⅰ	課程認定審査において、担当科目不適合のため、教員を変更(23)				
				外国語教育実践					教職実践演習(中・高)					
兼任	教授	西村 孝彦	平成25年4月	英語科教育法Ⅰ	兼任	教授	藤田 弘之	平成23年9月	英語科教育法Ⅰ	課程認定審査において、担当科目不適合のため、担当科目を変更(23)				
				生徒指導論					教職実践演習(中・高)					
兼任	講師	青木 貞子	平成25年4月	外国語教育実践	兼任	講師	青木 貞子	平成25年4月	教育方法の理論と実践	課程認定審査において、科目名称を変更(23)				
				英語科教育法Ⅰ										
兼任	講師	井登 大策	平成25年4月	外国語教育実践	兼任	講師	井登 大策	平成25年4月	教育方法の理論と実践	課程認定審査において、科目名称を変更(23)				
				英語科教育法Ⅰ										
兼任	講師	岩橋 昭	平成25年4月	生徒指導論	兼任	講師	高柳 真人	平成25年4月	生徒指導論	課程認定審査において、担当科目不適合のため、教員を変更(23)				
				教科外活動論					兼任		講師	小部 修	平成25年4月	特別活動の理論と実践
				特別活動の理論と実践										
				特別活動の理論と実践					兼任		講師	山口 満	平成25年4月	特別活動の理論と実践
兼任	教授	山口 満	平成24年4月	特別活動の理論と実践	兼任	教授	山口 満	平成24年4月	特別活動の理論と実践	教育基礎論 生徒指導論	課程認定審査において、既設学部において、専任教員として採用し、 授業担当科目を追加(24)			
兼任	講師	植田 都	平成24年4月	教育相談	兼任	講師	森田 健宏	平成23年4月	教育相談	課程認定審査において、担当科目不適合のため、教員を変更(23)				
兼任	講師	玉永 公子	平成23年4月	教育心理学						課程認定審査において、担当科目不適合のため、科目担当を取り下げ(23)				
兼任	講師	藤原 定壽	平成23年4月	教職概論	兼任	講師	藤原 定壽	平成23年9月	教職概論	課程認定審査において、担当科目不適合のため、担当科目および就任年月を変更(23)				
				教育制度概論					教育基礎論					
兼任	講師	山口 理沙	平成23年4月	教育基礎論	兼任	講師	山口 理沙	平成23年4月	教育基礎論	課程認定審査において、担当科目不適合のため、教員を変更(23)				



設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	北條 秀司	平成23年4月	人権問題論 教育基礎論	兼任	講師	北條 秀司	平成25年4月	人権問題論 学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館	課程認定審査において、担当科目不適合のため、担当科目および就任年月を変更(23) 司書教諭講習担当科目変更届出時に、担当科目(おんが)開講を追加(23)
				教育制度概論	兼任	講師	大谷 奨	平成24年4月	教育制度概論	課程認定審査において、担当科目不適合のため、教員を変更(23)
				道徳教育の研究 教科外活動論	兼任	講師	吉田 武男	平成24年4月	道徳教育の理論と実践 特別活動の理論と実践	課程認定審査において、「道徳教育の研究」教科外活動論は科目名称を変更(23)
兼任	講師	宮高 和男	平成25年4月	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 外国語教育実践	兼任	講師	宮高 和男	平成25年4月	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教育方法の理論と実践	課程認定審査において、科目名称を変更(23)
兼任	講師	森田 健宏	平成23年4月	教育心理学					教育相談 教育心理学	課程認定審査において、担当科目を追加(23)
兼任	講師	藤原 定壽	平成23年9月	教職概論 教育制度概論	兼任	教授	角野 茂樹	平成24年4月	教職概論 教育制度概論 生徒指導論	兼任講師退職に伴い、既設学部において、専任教員として採用(24)
兼任	教授	川瀬 正幸	平成24年4月	図書館サービス論 情報サービス概論 シニアサービス概論 情報検索演習 図書館資料論 専門資料論 資料特論 資料組織概論 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用	兼任	教授	川瀬 正幸	平成24年4月	生涯学習概論 図書館概論 図書館制度・経営論 図書館情報技術論 情報サービス論 情報サービス演習Ⅰ 図書館情報資源概論 図書館情報資源特論 図書館基礎特論 図書・図書館史 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用	
兼任	教授	平元 健史	平成24年9月	図書館資料論 図書館特論 児童サービス論	兼任	教授	平元 健史	平成24年4月	児童サービス論 情報資源組織論 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ	図書館法施行規則一部改正に伴う科目名称・配当年次・単位数の変更および新規科目の追加(24)
兼任	教授	細戸 康治	平成24年4月	生涯学習概論 図書館経営論 図書館概論 図書館サービス論 情報サービス概論 シニアサービス概論 情報検索演習 情報検索演習Ⅰ 資料組織概論 資料組織演習Ⅰ 資料組織演習Ⅱ 資料組織演習Ⅲ 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館	兼任	教授	細戸 康治	平成24年4月	生涯学習概論 図書館概論 図書館サービス論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ 情報検索演習 情報検索演習Ⅰ 情報検索演習Ⅱ 情報検索演習Ⅲ 情報資源組織論 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ 情報資源組織演習Ⅲ 図書館基礎特論 図書館情報資源特論 学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館	
兼任	講師	松木 陽子	平成25年9月	図書館特論 児童サービス論	兼任	教授	石井 道悦	平成24年4月	児童サービス論 図書館サービス概論 情報サービス論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ	図書館司書課程の充実を図るため、既設学部において、専任教員として採用(24)
兼任	教授	網倉 尚武	平成26年4月	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)	兼任	教授	角野 茂樹	平成24年4月	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	就任辞退に伴い、兼任教員へ担当者変更(25)
					兼任	講師	山元 行博	平成26年4月	教職実践演習(中・高)	就任辞退に伴い、兼任教員へ担当者変更(25)
兼任	講師	青木 貞子	平成25年4月	教育方法の理論と実践	兼任	教授	並松 善秋	平成25年4月	教育方法の理論と実践	退職(平成25年8月)に伴い、当該科目を担当している兼任教員の担当授業クラスを追加することで補充(26)
					兼任	教授	細戸 康治	平成26年4月	図書・図書館史	図書館司書課程の充実を図るため、兼任教員による担当授業クラスを追加(26)
兼任	講師	宮高 和男	平成25年4月	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教育方法の理論と実践	兼任	教授	並松 善秋	平成25年4月	教育方法の理論と実践	平成27年3月 宮高和男兼任講師退職のため、平成27年度より担当者を変更(27)
					兼任	講師	淺野 敏朗	平成27年4月	英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ	平成27年3月 宮高和男兼任講師退職のため、平成27年度より担当者を変更(27)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇学部 △学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。  
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。  
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。  
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。  
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。  
 ・ **認可で設置された学部長の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

## (2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
8	10	2	0	20	8	9	3	0	20	65	6	65	4
( 7 )	( 9 )	( 2 )	( 0 )	( 18 )	[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	歳	名	歳	名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
- し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
- ・「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	フィリップ クーク Phillip Clark	就業規則違反(平成24年4月)
2	講師	草野 千秋	雇用契約期間満了(平成27年4月)
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>大学の所見：          学生への影響を最小限にとどめるため、シラバスを変更することがないよう専任教員2名（教員資格審査で当該科目「可」の判定）と経験が豊富な兼任教員2名の補充で対処することとした。          なお、専任教員の補充等に関して「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し対応する予定である。          (1)平成24年9月から専任教員1名の担当授業科目を追加予定（平成24年6月提出予定）              → 平成24年 7月 AC教員審査済          (2)平成25年4月から専任教員を補充予定（平成24年12月提出予定）              → 平成25年 1月 AC教員審査済</p> <p>学生への周知方法          授業担当の変更について、学内掲示や履修登録システムの連絡ツールであらかじめ受講学生に通知し、1回目の授業開始時に教務部スタッフが新規担当教員に付き添い、紹介及びシラバスに変更がない旨の説明を行った。</p> <p>大学の所見：          既設学部からの転籍により、キャリア教育において、より専門性が高く、教育・研究実績のある専任教員を補充した。</p> <p>学生への周知方法：          授業担当者の変更について、学内掲示やWeb履修支援システム・履修登録ガイダンスにおいて、学生に配布または公開される時間割・コースシラバス等で周知徹底を図った。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (22年10月)</p>	<p>1. 3年次から全員留学させる本学科の趣旨にかんがみ、教職や図書館司書教諭など多様な資格の取得や留学先の授業の開講時期の違い等に支障なく対応できるように、学生に対して適切な履修指導を行うこと。</p>	<p style="text-align: center;">留意事項</p> <p><u>1. 3アドバイザー会議</u> 本学部では、①アカデミック・アドバイザー、②スタディアブロード・アドバイザー、③キャリア・アドバイザーの3アドバイザーにより、学生指導を行う。 留意事項の指摘を踏まえて、学生の受け入れに先立ち、①22.12.16に3アドバイザー・キックオフミーティング、②23.2.26に3アドバイザーミーティング、③23.3.11に同ミーティングと、3回にわたって3アドバイザー合同会議を開催し、各種資格取得を含む教学事項、留学、キャリア指導についての学生の指導体制確立を図った。-(資料1(1)～(3))-</p> <p><u>2. マニュアル作成等</u> (1) 「アドバイザー用新入生懇談会マニュアル(4月用)」を作成し、全教員の意思統一を図った。-(資料2)- (2) 23.4.11に全学生対象の「学修方法ガイダンス」を開催し、具体的指導を行った。-(資料3)-</p> <p><u>3. 学則改正による学期・学年暦の改正</u> わが国とアメリカ等の留学先大学との授業開始時期の違いにより、留学に支障が生じないように、併せて学生の就職活動時期と留学時期の競合を避けるため、平成24年度から学期を改正し、授業期間等の学年暦の改正を行う。 ・春学期 4/1～9/15⇒4/1～8/31 ・秋学期 9/16～3/31⇒9/1～3/31 (学則改正は、23.4.16理事会で了承し、23.5.12英語キャリア学部、外国語学部、国際言語学部教授会に附議、平成24年度学期改正は教授会で了承済み) -(資料4)-</p> <p style="text-align: center;">(23)</p> <p><u>1. 履修登録ガイダンス</u> 留意事項の指摘を踏まえて、教務委員会で履修マニュアルを作成し、春・秋各学期の履修登録ガイダンス時に全学生に配付を行い、留学や資格取得を前提とした授業科目の履修方法等について入念に指導を行った。 併せて、新入生に対して「学びのガイダンス」を開催し、3アドバイザー協働で当学部の特色や学修方法について具体的指導を行った。 (1) 春学期 ①新入生対象：24.3.26 ②新2年次生：24.3.24 (2) 秋学期 ①1年次生：23.9.7 (資料1(1)・(2))</p> <p><u>2. 資格ガイダンス</u> 留意事項の指摘を踏まえて、学生にとって留学と各種資格取得が円滑に行われるよう、教職課程、日本語教員養成課程、図書館司書課程、司書教諭課程履修者に対してガイダンスを実施し、課程の概要や履修登録方法について説明を行った。 (1) 新入生対象：24.3.27 (2) 新2年対象：24.3.24 (資料2(1)・(2))</p>	

		<p><u>3. 3アドバイザー会議</u>      留意事項の指摘を踏まえて、春・秋各学期途中に3アドバイザー情報交換会を開催し、各種資格取得を含む教学事項、留学、キャリア指導に関する進捗状況について情報を共有し合い、以降の学生の指導体制・方法の確認を行った。      (1)春学期：23.6.2      (2)秋学期：23.11.17      (資料3(1)・(2))</p> <p><u>4. クラス別懇談会</u>      留意事項の指摘を踏まえて、入学直後、秋学期授業開始前、2年次履修登録時の3回にわたり、3アドバイザー協働によるクラス別懇談会を実施し、留学へ向けた資格審査の概要、留学準備の心構え、修得しておくべきスキル、履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。      (1)第1回：23.4.5      (2)第2回：23.9.20      (3)第3回：24.3.24      (資料4(1)～(3))</p> <p><u>5. 学年暦の改正</u>      留学先の授業の開講時期の違い等に支障なく対応できるよう、平成24年度から学則を改正し、学年暦の変更を行った。      ・春学期 4/1～9/15⇒4/1～8/31      ・秋学期 9/16～3/31⇒9/1～3/31      (資料5)</p> <p style="text-align: center;">( 2 4 )</p> <p><u>1. 履修登録ガイダンス</u>      留意事項の指摘を踏まえて、平成24年度と同様に履修指導、学修方法等の具体的な指導を行った。      (1)春学期          ①新2年次生：25.3.23          ②新3年次生：25.3.22      (2)秋学期          ①1年次生：24.8.30          ②2年次生：24.8.31      (資料1(1)・(2))</p> <p><u>2. 資格ガイダンス</u>      留意事項の指摘を踏まえて、学生にとって留学と各種資格取得が円滑に行われるよう、教職課程、日本語教員養成課程、図書館司書課程、司書教諭課程履修者に対して平成24年度と同様にガイダンスを実施し、課程の概要や履修登録方法について説明を行った。      (1)新2年対象：25.3.23      (2)新3年対象：25.3.22      (資料2(1)・(2))</p> <p><u>3. 3アドバイザー会議</u>      留意事項の指摘を踏まえて、春・秋各学期途中に3アドバイザー情報交換会を開催し、各種資格取得を含む教学事項、留学、キャリア指導に関する進捗状況について情報を共有し合い、以降の学生の指導体制・方法の確認を行った。      (1)春学期：24.6.7      (2)秋学期：24.11.8      (資料3(1)・(2))</p>	
--	--	--	--

		<p><u>4. クラス別懇談会</u>      留意事項の指摘を踏まえて、入学直後、秋学期授業開始前、1年次終了時の3回にわたり、3アドバイザー協働によるクラス別懇談会を実施し、留学へ向けた資格審査の概要、留学準備の心構え、修得しておくべきスキル、履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。      (1)第2回：24.9.10      (2)第3回：25.1.24      (資料4(1)・(2))</p> <p><u>5. 長期留学候補生オリエンテーション</u>      本学での履修・学習方法等の指導に加え、留学資格審査に合格した学生（候補生）対象に留学準備等に関するオリエンテーションを実施。留学前予備教育、留学の心構え、留学中に履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。      (1)第1回：25.2.5 →資料添付      (2)第2回：25.2.7      (3)第3回：25.3.21      (4)第4回：25.4.17      (資料5(1))</p> <p>(25)</p> <p><u>1. 履修登録ガイダンス</u>      留意事項の指摘を踏まえて、平成25年度と同様に履修指導、学修方法等の具体的な指導を行った。      (1)春学期      ①新2年次生：26.3.24      ②新3年次生：26.3.22      ③新4年次生：26.3.22      (2)秋学期      ①1年次生：25.8.30      ②2年次生：25.8.31      ③3年次生：25.9.2      (資料1(1)・(2))</p> <p><u>2. 資格ガイダンス</u>      留意事項の指摘を踏まえて、学生にとって留学と各種資格取得が円滑に行われるよう、教職課程、日本語教員養成課程、図書館司書課程、司書教諭課程履修者に対して平成25年度と同様にガイダンスを実施し、課程の概要や履修登録方法について説明を行った。      (1)新2年対象：26.3.24      (2)新3年対象：26.3.22      (3)新4年対象：26.3.22      (資料2(1)・(2)・(3))</p> <p><u>3. 3アドバイザー会議</u>      留意事項の指摘を踏まえて、春・秋各学期途中に3アドバイザー情報交換会を開催し、各種資格取得を含む教学事項、留学、キャリア指導に関する進捗状況について情報を共有し合い、以降の学生の指導体制・方法の確認を行った。      (1)春学期：25.5.23      (2)秋学期：25.10.17      (資料3(1)・(2))</p> <p><u>4. クラス別懇談会</u>      留意事項の指摘を踏まえて、入学直後、秋学期授業開始前、1年次終了時の3回にわたり、3アドバイザー協働によるクラス別懇談会を実施し、留学へ向けた資格審査の概要、留学準備の心構え、修得しておくべきスキル、履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。      (1)第2回：25.9.10      (2)第3回：26.1.25      (資料4(1)・(2))</p>	
--	--	---	--

		<p><u>5. 長期留学候補生オリエンテーション</u>  本学での履修・学習方法等の指導に加え、留学資格審査に合格した学生（候補生）対象に留学準備等に関するオリエンテーションを実施。留学前予備教育、留学の心構え、留学中に履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。  (1) 第1回：26.2.4 →資料添付  (2) 第2回：26.2.13  (3) 第3回：26.3.26  (4) 第4回：26.4.16  (資料5)</p> <p><u>6. 長期留学帰国生ガイダンス</u>  長期留学から帰国した学生に対し、留学中の学修内容の報告書作成指導および帰国後より本格化する就職活動に備え、ガイダンスを行った。本学での学修と留学中の学修が卒業後の進路へ有機的に結びつくよう、具体的に指導を行った。  (1) 第1回：25.12.13  (2) 第2回：25.12.20  (3) 第3回：26.1.10  (4) 第4回：26.1.24  (資料6)</p> <p style="text-align: center;">(26)</p> <p><u>1. 履修登録ガイダンス</u>  留意事項の指摘を踏まえて、平成25年度と同様に履修指導、学修方法等の具体的な指導を行った。  (1) 春学期  ①新2年次生：27.3.23  ②新3年次生：27.3.20  ③新4年次生：27.3.20  (2) 秋学期  ①1年次生：26.8.30  ②2年次生：26.9.1  ③3年次生：26.9.2  (資料1(1)・(2))</p> <p><u>2. 資格ガイダンス</u>  留意事項の指摘を踏まえて、学生にとって留学と各種資格取得が円滑に行われるよう、教職課程、日本語教員養成課程、図書館司書課程、司書教諭課程履修者に対して平成25年度と同様にガイダンスを実施し、課程の概要や履修登録方法について説明を行った。  (1) 新2年次生：27.3.23  (2) 新3年次生：27.3.20  (3) 新4年次生：27.3.20  (資料2(1)・(2)・(3))</p> <p><u>3. 3アドバイザー会議</u>  留意事項の指摘を踏まえて、春・秋各学期途中に3アドバイザー情報交換会を開催し、各種資格取得を含む教学事項、留学、キャリア指導に関する進捗状況について情報を共有し合い、以降の学生の指導体制・方法の確認を行った。  (1) 春学期：26.5.8  (2) 秋学期：26.10.16  (資料3(1)・(2))</p> <p><u>4. クラス別懇談会</u>  留意事項の指摘を踏まえて、入学直後、秋学期授業開始前、1年次終了時の3回にわたり、3アドバイザー協働によるクラス別懇談会を実施し、留学へ向けた資格審査の概要、留学準備の心構え、修得しておくべきスキル、履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。  (1) 第2回：26.9.10  (2) 第3回：27.1.27  (資料4(1)・(2))</p>	
--	--	--	--

			<p>5. <u>長期留学候補生オリエンテーション</u>  本学での履修・学習方法等の指導に加え、留学資格審査に合格した学生（候補生）対象に留学準備等に関するオリエンテーションを実施。留学前予備教育、留学の心構え、留学中に履修しておくべき授業等について具体的に指導を行った。  (1) 第1回：27.2.3 →資料添付  (2) 第2回：27.2.5  (3) 第3回：27.3.19  (4) 第4回：27.4.16  (資料5)</p> <p>6. <u>長期留学帰国生ガイダンス</u>  長期留学から帰国した学生に対し、留学中の学修内容の報告書作成指導および帰国後より本格化する就職活動に備え、ガイダンスを行った。本学での学修と留学中の学修が卒業後の進路へ有機的に結びつくよう、具体的に指導を行った。  (1) 第1回：26.12.12  (2) 第2回：27.1.9  (3) 第3回：27.1.23  (資料6)</p> <p>(27)</p>	
設置計画履行状況調査時 (23年5月)	該当なし		該当なし	該当なし
設置計画履行状況調査時 (24年5月)	該当なし		該当なし	該当なし
設置計画履行状況調査時 (25年5月)	該当なし		該当なし	該当なし
設置計画履行状況調査時 (26年5月)	該当なし		該当なし	該当なし
設置計画履行状況調査時 (27年2月)	英語キャリア学部英語キャリア学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	改善意見	<p>【現状】平成27年4月現在、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は30名中11名（36.7%）となる。完成年度を迎える平成28年4月には10名（33.3%）となる。</p> <p>【改善状況】退職年齢を超える教員の後任については、人事委員会のメンバーを中心として、学会・研究会などを通して、人材発掘・リクルーティングを行っている。</p> <p>(27)</p>	退職年齢を超える者の後任人事については、引き続き、「英語キャリア学部教員組織編制改善方針」を踏まえ、当該科目を担当するにふさわしい教員の積極的な発掘・リクルーティングなどを行うため、人事委員会のメンバー、あるいは教職課程担当の教員等を中心として、当該人材の確保に努め、平成29年には退職年齢を超える割合を半減させるべく、教員組織編制の適正化を図る。

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。



## 7 その他全般的事項

<英語キャリア学部 英語キャリア学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

大学全体の教育活動の質的向上・発展を図ることを目的として、平成20年度から「ファカルティ・デベロップメント（FD）委員会」を設置している。構成員は、委員長、教務部長、学長が委嘱する委員（外国人教員含む）、事務局長等の関係職員など、総勢37人で活動を展開している。

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年間7回程度開催している。委員は出席を義務付けられており、出張や学内会議等の公務による理由以外は、毎回ほぼ全員が出席している。

##### c 委員会の審議事項等

- ・ 教育内容および方法の改善のための方策に関する事項
- ・ 教育内容および方法にかかる研究会、研修会、シンポジウム等の企画運営に関する事項
- ・ 学生による授業評価の実施、分析等に関する事項
- ・ 教員からの教育内容および方法の相談に関する事項
- ・ 教育内容および方法にかかる指導が必要な教員に関する事項
- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動報告書等の作成に関する事項
- ・ 学長が諮問する事項

#### ② 実施状況

##### a 実施内容

- ・ FD授業公開の実施
- ・ FD教員研修会の開催
- ・ FD授業評価の実施・分析
- ・ FD授業改善アンケートの実施
- ・ FDワークショップの開催
- ・ FD講演会の開催
- ・ FDカフェの開催
- ・ FD授業実践研究フォーラムの開催
- ・ FDシンポジウムの開催
- ・ 機関紙『FD Newsletter』の発行
- ・ 機関誌『高等教育研究論集』の刊行

b 実施方法

- ・ FD授業公開の実施(年間2回)  
春・秋学期に各2か月間の授業公開期間を設け、全学部全授業を対象とした教員の相互授業参観を行っている。授業者は、参観者からの建設的なコメント(フィードバック)を自分の授業に反映させる。同時に、参観者は、授業者の教授法を自らの授業の参考にしている。
- ・ FD教員研修会の開催(年間1回)  
当該年度着任の教員を主な対象に、より魅力ある授業を目指し、授業経験豊富な教員の授業実践報告・議論を通じて、授業の質の向上を図っている。
- ・ FD授業評価の実施・分析(年間2回)  
春・秋学期ともに、全開講科目の履修者を対象として実施している。FD授業評価は、各学期終了後に、担当教員本人へフィードバックし、次学期からの授業運営に生かすことで、授業の質の向上を図っている。FD授業評価結果および分析結果は、Web上で公開する予定である。
- ・ FD授業改善アンケートの実施(年間2回)  
学生による授業評価を自らの授業改善にどのように活かしているかについて、年間2回のアンケートを実施している。アンケート分析結果は、機関紙『FD Newsletter』を通じて全教職員に周知している。
- ・ FDワークショップの開催(年間1回)  
FD委員会が推薦する教員が、単独又は複数で「私の授業実践」や「私の授業改善の試み」といったテーマで発表し、その内容について出席者同士で意見交換する。
- ・ FD講演会の開催(年間1回)  
学外の専門家や実務家を招き、外部から見た本学に求められる教育研究活動等、FDの形骸化を防ぎ、推進に寄与するテーマを設定、講演・質疑応答を通じて授業改善を図る。
- ・ FDカフェの開催(年間3回)  
学内の教員が、教育・授業、学問・研究、あるいは人生観など自由に話し、参加者と懇談する。学生も参加可能で、教員と学生とが、専門的な事項について活発かつ自由に議論し、教員・学生協働で授業改善を図る。
- ・ FD授業実践研究フォーラムの開催(年間1回)  
全学的に発表者を公募し、応募教員一人当たり30分の持ち時間で教育実践を中心とした高等教育に関するテーマについて学会形式で発表を行うもので、教員同士の知見・経験を共有し、教育力の向上を目指す。
- ・ FDシンポジウムの開催(年間1回)  
ひとつの統一テーマのもとに、複数教員による特定の教育プログラムの実践例について報告会を行い、フロアとの質疑応答を通じて授業改善の方法を探る。テーマ及び発表者は公募する。
- ・ 機関紙『FD Newsletter』の発行(年間4回)  
FD委員会の活動方針・予定、教員の参加状況・コメント、各プログラムの実施報告等を掲載した機関紙を発行。全教職員に配付。紙面は日英両語で併記され、約200人の外国人教員とも情報の共有を図っている。
- ・ 機関誌『高等教育研究論集』の刊行(年間1回)  
本学教員の教育実践に係る論文等の投稿を募集し、FD委員会が査読を行い掲載の可否を判断する。併せて、FD委員会が企画・実施したFD活動記録も含めて編集し、全教職員に配付する。
- ・ FD委員会所管外の活動  
新任教員ガイダンス(教務委員会主催、年1回)、人権問題学習会(人権教育思想研究所主催、年1回)、新任教職員人権問題研修会(人権教育思想研究所主催、年1回)、オール英語による授業のための米国大学におけるFD研修(米国ウイスコンシン大学と共催、年1回)などを実施している。  
このほか、FD委員を中心に外部の研究会等にも積極的に参加し、他大学の最新の取組状況や関係学会等における研究成果の吸収を図っている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・ FD授業公開の実施  
平成26年度は春学期(5月1日～6月30日)と秋学期(11月3日～12月24日)にそれぞれ2か月間実施し、春学期は81人、秋学期は59人の授業参観の申込があった。
- ・ FD新任教員研修会の開催  
平成26年度は、5月10日(土)午後に開催し、新任教員15人を含む43人の参加があった。
- ・ FD授業改善アンケートの実施  
平成26年度は、春学期(5月12日～17日)と秋学期(9月29日～10月4日)の2回実施。春学期は492人(全教員の86%)、秋学期は488人(全教員の86%)からの回答(回収率)を得た。
- ・ FDワークショップの開催  
平成26年度は、7月18日(金)に2名の教員によるワークショップを開催し、それぞれ「内容中心型(content-based)科目Integrated EnglishおよびAcademic Englishをベースとしたカリキュラムの歩みと展望」「教員をめざす学生の夢に寄り添って―教員採用試験対策11年を振り返って―」のテーマで41人の参加があった。
- ・ FD講演会の開催  
平成26年度が第5回目となる。9月10日(水)に開催し、「いかにして授業改善へのモチベーションを高めるか―改善の成果を可視化する―」のテーマで、49人の参加があった。

- ・ FDカフェの開催  
平成25年度に引き続き、平成26年度は、第4回目を6月26日(木)[22名出席]、第5回目を10月30日(木)[35名出席]、第6回目を12月18日(木)[96名出席]に行い、それぞれ「インド人のやさしさと透徹した思想について」、「外大生にふさわしい「日本学」を模索して」、「関西外大の明日に向かって」と題し、意見交換を行った。
- ・ FD授業実践研究フォーラムの開催  
平成26年度が第4回目となるフォーラムを1月6日(火)に開催。発表者32人(うち外国人15人)から授業実践に関する取組みが報告され、91人の参加があった。
- ・ FDシンポジウムの開催  
平成26年度が第7回となる。2月4日(水)に開催し、「PBLの教育効果について一同志社大学プロジェクト科目の事例を通して」のテーマで講演を行い、パネルディスカッションも行った。出席者は44人であった。
- ・ 機関紙『FD Newsletter』の発行  
平成26年度は、6月号(第26号)、10月号(第27号)、1月号(第28号)、3月号(第29号)の4回発行。
- ・ 機関誌『高等教育研究論集』の刊行  
平成26年度は、7人の教育実践に係る論文投稿、第4回FD授業実践フォーラムのプロシーディングズや平成25年度のFD活動記録を掲載した第4号論集を刊行した。
- ・ FD委員会所管外の活動
  - \* 新任教員ガイダンス 平成27年3月31日(火)実施、117人出席。
  - \* 人権問題学習会 平成26年11月21日(金)実施、19人出席。
  - \* 新任教職員人権問題研修会 平成26年5月19日(月)・20日(火)実施、37人出席。
  - \* 米国ウィスコンシン大学におけるFD研修 平成27年2月11日(水)～2月22日(日)実施、7人参加。

#### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

こうした年間を通じた組織的・全学的FD活動を踏まえ、外国語教育を中心に、幅広い分野で実践的な授業改善に取り組んでいる。その結果は、年2回実施している学生による授業評価において、総合満足度が平成22年度春学期73%・秋学期77%、平成23年度春学期73%・秋学期77%、平成24年度春学期74%・秋学期75%、平成25年度春学期75%・秋学期78%、平成26年度春学期74%・秋学期78%と高い比率を維持するなど、成果を上げている。学生による評価結果は、教員別・授業科目別にまとめて冊子とし、図書館に備え付けて公開している。

今後は、これまでの教育改善を主な目的としたFD活動に加えて、厳格な成績評価へ向けてのGPA制度の導入や科目・教員間のより積極的なコーディネートについて検討を深めることにより、FDの実質化を推進する。

英語キャリア学部では、これらのFD活動のほか、新入生受け入れ直後から、3アドバイザー(アカデミック・アドバイザー、スタディアブロード・アドバイザー、キャリア・アドバイザー)による学生指導方針、指導分担、学生の学修進捗度等について情報交換会を行っている。(平成24年6月、11月、平成25年5月、11月、平成26年5月、10月)

特に、指導の中心的存在となる専任教員(アカデミック・アドバイザー)12人が中心となって、授業登録に係るオリエンテーションのほかに、当該学部の特色、学修分野の説明、学修方法等についてのガイダンスや、クラス別懇談会を行っている。(平成26年3月、9月、平成27年1月)

本学部が原則として3年次に1年間の専門留学に派遣されることが前提となっていることから、留学派遣に係る資格審査へ向けての学修指導、審査基準の設定、資格審査実施など、アカデミック・アドバイザーとスタディアブロード・アドバイザーが入念な打合せを行い、キャリア・アドバイザーとも情報を共有しながら全学的・組織的に指導を行っている。

キャリア・アドバイザーは、1回生の早期の段階からキャリアへの気づきを促すため、講演会、各種ワークショップ、個別面談等を年間を通じて実施し、学生の傾向や志向性について他のアドバイザーへフィードバックを行っている。また、平成26年度は完成年度を迎えるにあたり、キャリアセンター委員の体制も強化し、進路指導体制の充実を図っている。

上記取組は、今後も年間を通じて行う予定で、教員の資質の維持・向上のため、更なる授業科目間のコーディネート(特に日本人教員と外国人教員間)や3アドバイザーの情報共有・連携強化に取り組んでいく。

### ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

#### a 実施の有無及び実施時期

年に2回、学期ごとに、全開講科目の履修者を対象とし、実施している。平成26年度は、春学期(7月10日～7月22日)、秋学期(12月18日～12月24日)に実施。

#### b 教員や学生への公開状況、方法等

学生による授業評価は、各学期終了後に集計結果を担当教員本人へフィードバックしている。また、授業評価の集計結果は、教員別・科目別にまとめて冊子とし、図書館に備え付けて、教職員および学生に公開している。

平成26年度に評価項目の見直しを行い、平成27年度より新項目で実施する。授業評価結果および授業改善アンケート結果をWeb上で公表予定。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
全般的に概ね計画どおりに進行している。
- ・入学定員120人に対し、入学者は平成23年度123人(志願者2,175人)、平成24年度123人(志願者1,683人)と順調かつ適切に確保している。
  - ・平成26年度は、退学率が14.2%へ上昇したことから、平成27年度より、就学意欲の低下や学業不振の恐れのある学生を指導するため、3アドバイザー間の情報共有をWeb化し、迅速かつ的確に指導できるよう体制を強化している。
  - ・平成24年11月、本学部の学位の分野をこれまでの「文学関係及び経済学関係」の学際領域における複合的なものから、「文学関係と教育学・保育学関係の融合及び経済学関係」の学際領域における複合的なものに改組し、本学部英語キャリア学科に「小学校教員コース」を設置した。それに伴い、改組前の「教育学・保育学関係」を含まない英語キャリア学部英語キャリア学科については、平成25年4月より学生の募集を停止した。改組後の英語キャリア学部英語キャリア学科で平成25年4月より学生を受け入れている。  
<参考：平成25年度124人(志願者2,309人)、平成26年度128人(志願者1,946人)、平成27年度150人(志願者2,097人)>
  - ・学生の学修進捗状況について、英語力は、平成23年度入学生では入学時のTOEFL(PBT)の平均点458点が、平成24年1月では488点と30点、平成24年度入学生では入学時のTOEFL(PBT)の平均点466点が、25年12月では504点と38点の伸びを示しており、教育効果は着実に上がっている。平成24年度入学生の4年生において、89人(全体の89%)がTOEFL500点以上を取得しており、英語キャリア学科の到達目標であるTOEFL550点・TOEIC730点以上取得の学生も48人に達している。
  - ・平成23年度入学生の留学派遣状況は、2年次(2012年)秋から3人、3年次(2013年)春から29人、3年次(2013年)秋には48人を派遣した。全体では、80人(全体の72.1%)が留学へ参加した。
  - ・平成24年度入学生の留学派遣状況は、2年次(2013年)秋から4人、3年次(2014年)春から35人、3年次(2014年)秋には36人、平成27年度にも2名を派遣する予定であり、全体では77人(全体の75.5%)が留学へ参加または現在留学の準備を進めている。
  - ・事情により留学に参加できなかった学生へは、留学生別科共同開講科目やオール英語で開講される科目を積極的に受講し、英語力の向上と学際領域における複合的学修に努めるよう指導を行っている。
  - ・キャリア支援については、キャリア・アドバイザーを中心に個々の学生に対し、1年次より各学期最低1回ずつの面談を実施し、進路に対する目標設定や就職・進学に向けた準備、対策等のきめ細かな指導を行っている。  
平成23年度入学生の就職状況は、就職希望者の就職率100%を達成した。
  - ・3アドバイザーは、学部全体の学修指導方針や学生一人ひとりの学力・就学状況について相互に確認を行いつつ、適切に指導を行っており、今後もこの体制を維持・強化していく。
  - ・英語と社会科学の複合的学修の集大成として、4年次秋学期に「複合研究」を開講し、平成26年12月20日に学修成果発表会を開催した。学修成果発表会では、各クラスより選抜された計13名の発表を行い、参加学生・企業・教職員による英語キャリア基礎力の評価・検証を行った。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表(予定)時期
- ・平成25年6月末日 公表済
- b 公表方法
- ・大学ホームページ上に公開済(平成25年6月末)
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成24年度に評価機関(公益財団法人大学基準協会)の評価を受審し、適合認定を受けた。認定期間は、平成25年4月1日から平成32年3月31日までの7年間である。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

### (4) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表の有無 (  有 ・  無 )
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) ( 平成27年 6月 末日 )

## 資料一覧

- 資料 1 (1) 平成 27 年度履修マニュアル (共通編)
- 資料 1 (1) ① 履修マニュアル (学部 2 年 春学期)
- 資料 1 (1) ② 履修マニュアル (学部 3 年 春学期)
- 資料 1 (1) ③ 履修マニュアル (学部 4 年 春学期)
- 資料 1 (1) ④ 履修規程の変更について
- 資料 1 (2) ① 履修マニュアル (学部 1 年 秋学期)
- 資料 1 (2) ② 履修マニュアル (学部 2 年 秋学期)
- 資料 1 (2) ③ 履修マニュアル (学部 3 年 秋学期)
- 資料 2 教職課程からの履修のお知らせ (学部)  
教職課程ハンドブック  
司書教諭ガイダンス
- 資料 2 (1) 「学部 2 年で『成す・為す』べき事」  
司書課程ガイダンス (英語キャリア学部 2 年)
- 資料 2 (2) 第 1 回教育実習ガイダンス (新 3 年生対象)  
司書課程ガイダンス (英語キャリア学部 3 年)
- 資料 2 (3) 学部新 4 年次 教職課程ガイダンス  
司書課程ガイダンス (英語キャリア学部 4 年)
- 資料 3 3 アドバイザー年間スケジュールについて
- 資料 3 (1) 英語キャリア学部 3 アドバイザー情報交換会 (平成 26 年 5 月 8 日)
- 資料 3 (2) 英語キャリア学部 3 アドバイザー情報交換会 (平成 26 年 10 月 16 日)
- 資料 4 (1) 『第 2 回アドバイザー懇談会』実施について
- 資料 4 (2) 『第 3 回アドバイザー懇談会』実施について
- 資料 5 2015 年秋派遣専門留学候補生 (英語キャリア学部) 第 1 回オリエンテーション
- 資料 6 長期留学帰国生ガイダンス
- 資料 7 関西外国語大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会規程